日本の伝統美を燈す文化祭

第9回 勝福寺寶燈展

仏画と御室流（おむろりゅう）の生け花

平成30年 4月21日(土) 観覧無料 午前9時30分▶午後4時30分

■主　催　徹林山 勝福寺　■会　場　勝福寺本堂・客殿（岡山県総社市久代3438）

正絹手刺繍　弘法大師像（軸寸法55㎝×120㎝）

不動明王像（軸寸法40㎝×92㎝）平成18年

題字／京都仏画研究所　代表絵師　大里宗之氏
勝福寺ご本尊キャラクター・挿絵／冨永　洋氏

記念講演（予定）

演題「生活の中の生け花」

御室流華道
顧問（元華務長）
川井宏雄 先生

午後14時00分～15時00分頃
定員約70名（先着順）
無料

講演中は展示物をご覧頂くことは出来ません。
悪しからずご了承下さい。

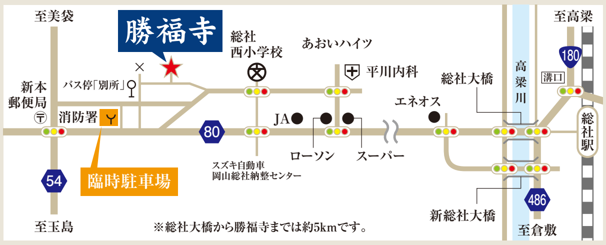
御室流の生け花「桜」

当日、お茶席を開催いたします。
一席 三〇〇円
お茶席開催時間
午前10時▼午後3時まで

伝統を今に生かし、時代の一歩先へ

宗教法人 真言宗 御室派
徹林山 勝福寺

■〒710-1201 岡山県総社市久代3438
■TEL 0866-96-0615 ■FAX 0866-96-2233
■ホームページ http://www.geocities.jp/gikooh/



臨時駐車場のご案内

お寺の駐車場が満車の場合、総社市消防署「西出張所」西側の駐車場を臨時駐車場としてお借りしています。そこから勝福寺までは徒歩で約10分（400m）です。

総社市消防署西出張所｜総社市久代2635-1/Tel.0866-96-1196

不動明王像(初七日忌)
42cm×60cm　平成18年

釈迦如来像(二七日忌)
42cm×60cm　平成18年

文殊菩薩像(三七日忌)
42cm×60cm　平成18年

普賢菩薩(四七日忌)
42cm×60cm　平成18年

地蔵菩薩像(五七日忌)
42cm×60cm　平成18年

弥勒菩薩像(六七日忌)
42cm×60cm　平成18年

光明真言曼荼羅
40cm×92cm　平成18年

薬師如来像(七々日忌)
42cm×60cm　平成18年

観音菩薩像(百ヵ日忌)
42cm×60cm　平成18年

勢至菩薩像(一周忌)
42cm×60cm　平成18年

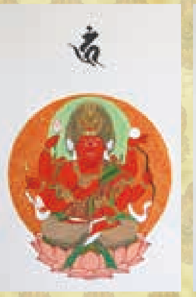
阿弥陀如来像(三回忌)
42cm×60cm　平成18年

阿閦如来像(七回忌)
42cm×60cm　平成18年

金剛界大日如来像(十三回忌・二十七回忌)
42cm×60cm　平成18年

胎蔵界大日如来像(十七回忌)
42cm×60cm　平成18年

般若菩薩像(二十三回忌)
42cm×60cm　平成18年



愛染明王像(二十五回忌・五十回忌)
42cm×60cm　平成18年

虚空蔵菩薩像(三十三回忌)
42cm×60cm　平成18年

金剛薩埵像(三十七回忌)
42cm×60cm　平成18年

五秘密菩薩像(百回忌)
42cm×60cm　平成18年

十六善神
45cm×95cm　明治15年

十界図
156×224cm　平成14年

虚空蔵菩薩像
38cm×40cm　平成22年

宇多法皇像
55cm×103cm　平成12年

弘法大師の般若心経(複製品)
30cm×52cm　平成29年

第九回　勝福寺寶燈展

「仏画と御室流の生け花」の開催に寄せて

日本人の美意識が創造してきた伝統文化を今に生かし、後世に伝える一助になればと始めた勝福寺寶燈展は、今春第九回目を迎えます。今回は、当山所蔵の仏画(約三十点)と、京都・仁和寺に伝わる「御室流」の生け花を展示させて頂く予定です。

仏画は、礼拝や法会の際に用いられる仏菩薩の尊像画や、それらの集合像である曼荼羅等を指しますが、この度は「心の安楽と祈り」をテーマに、伝統的な彩色・金銀泥、截金等の技法で描かれた諸尊像、御影、或いは正絹手刺繍が施された弘法大師像等をご高覧頂き、心の安らぎと活性化の機縁になることを願っております。

日本は今、物質文明の最高潮にあるといえます。その一方で、神仏や自然界への畏敬の念が薄れ、自由主義に翻弄された結果、精神文化は衰退の一途を辿っています。かつて、平安時代の弘仁九年(八一八)戊の春、全国に大旱魃が発生、疫病が蔓延しました。時の第五十二代・嵯峨天皇はお大師様(空海)のお勧めにより、紺紙金泥で一字書かれる毎に三度五体投地をなされながら般若心経を書写、またお大師様は疫病鎮静の修法を行われると、金輪御信力の霊験が現れ、疫病が治まったと『般若心経秘鍵』(空海著)に述べられています。現代の文明社会に、この現象が偶然と申せましょうか?

本年、平成三十年は干支の「戊戌」。弘仁九年から二十回目の戊戌に相当します。この記念すべき節目に際し、「祈りの誠は神仏に通ず」という嵯峨天皇の純真な御心と、お大師様の御教えに想いを致したいのであります。今回は、嵯峨天皇の御影と、お大師様が般若心経を御進講された時のお姿として伝わる秘鍵大師を展示致します。

さて、生け花の歴史は、五三八年の仏教伝来と共に、仏様に花を供える「供花」に遡ります。美しい四季のある日本は、日本最古の歌集『万葉集』にも、花や植物が多く詠まれてきました。御室流華道は、真言宗御室派・総本山仁和寺を家元とする華道の流派です。仁和寺は、仁和二年(八八六)、第五十八代・光孝天皇の発願された「西山御願寺」に起源します。しかし、翌年に光孝天皇は崩御、第五十九代・宇多天皇が先帝の遺志を継がれ、仁和四年(八八八)に寺号を「仁和寺」と改め、ご開山されました。宇多天皇の治世は「寛平の治」と高く称されていますが、一方で信仰心極めて篤く、また、風雅を愛された文化人でもありました。幼少よりお大師様をお慕いされておられた帝皇は、三十一歳で譲位・出家、宇多法皇(寛平法皇)となられますが、御室流華道では宇多天皇を「流祖」として尊崇しております。

この度は、御室流華道の元華務長で、現在は顧問の川井宏雄先生を講師にお迎え致し、ご講演頂く予定に致しております。但し、先生のご体調具合により中止とさせて頂く場合もありますが、その際は何卒ご了承下さい。

最後に、真言宗をお開きになられたお大師様は、済世利人の行に徹せられ「この世に密厳仏国をつくる」、即ちこの世に仏の国をつくるという高いご理想をお持ちでした。本展覧会は密厳仏国には及ばないまでも、多くの仏様と、洗練された生け花で荘厳したいと思います。

なお、寶燈展の開催にあたり、陰日向から多大なご協力を頂きました勝福寺檀信徒並びに、関係各位に厚く御礼申し上げます。　合　掌

平成三十年三月

徹林山勝福寺　住職　江原　義空拝

勢至菩薩(鎌倉時代)

次回の「第10周年記念寶燈展」は

「勝福寺の名宝と、木工芸家 林鶴山さん追憶展」

をお送りする予定です。

私の恩師で、当山発展にご尽力頂いた木工芸家・林鶴山(岡山県重要無形文化財)さんが本年2月にご他界されました。ここに、先生の生前の遺徳を偲び、哀悼の意を表します。

その他の催しもの

- 将棋コーナー・囲碁コーナー(予定) 無　料
- 勝福寺では年15回、仏教講話を開講しています。今年度は「般若心経」です。詳細はお寺までお問合せ下さい。

観音菩薩(鎌倉時代)